

## あとがき

大堰川（桂川）流域で中学まで育ち、かつては茅葺きだった実家も残る。父の勤務の都合で由良川流域でも1年を過ごし、両河川では川ガキとして水泳や魚取りなどに興じた。自然堤防も多いため、天然記念物のオオサンショウウオにもお目にかかれる清流である。かつての杭・竹材・柴に石などで地元民が作る用水堰は、コンクリートと止め板の堰を経て、ラバー堰へと変化した。手作りの堰や木製の橋は大きな洪水の度に流されるのを何度も見てきた。川そばで暮らし、堤防決壊によって床下を濁水が洗う洪水も経験した。便利になっても過疎化が進行する今は、少子化もあるが、子供は学校のプールへ、ゲーム機等での室内遊びと町の子と同じになってしまい、かつての川ガキの姿はなく、寂しいかぎりである。

（公社）日本水環境学会関西支部川部会／海老瀬潜一

## 参考文献

- ・海老瀬潜一(2007)関西の川歩き, No.24, 由良川と桂川の源流とダムめぐり, 環境技術, 36(10), 753-755.
- ・環境省資料
- ・仲村 研(1994)山国隊(中公文庫), p.250.
- ・水資源機構 日吉ダム(2013)日吉ダムリーフレット
- ・吉川俊一ほか(2004)沢ノ池(京都市)のpH, アルカリ度, 各種イオン類の11年間の変動傾向について, 陸水学会誌, 65(2), 99-108.

[写真提供]

- ・京都府ホームページ(大野ダム)
- ・平安神宮(維新勤皇隊列)
- ・水資源機構 日吉ダムホームページ(非常用洪水吐き, 確保日数グラフ)

## 既刊の紹介

- ・源流を行く 編 『名張川』(2013)『木津川上流』(2013)『高時川・余呉湖』(2014)
- ・おうみの川 編 『赤野井湾と流入河川』(2013)
- ・みやびな川 編 『台川』(2010)『鴨川・明神川』(2012)『琵琶湖疏水』(2013)
- ・歴史とロマンの川 編 『瀬田川・宇治川』(2010)『保津川・桂川』(2011)『芥川』(2011)『猪名川』(2013)
- ・なにわの川・庶民の川 編 『東横堀川・道頓堀川』(2011)『恩智川・生駒の川』(2012)『中河内の川』(2013)『大川と大阪市内河川』(2013)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
〈企画編集〉(公社)日本水環境学会関西支部川部会  
(一社)近畿建設協会

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる  
～ちょっと大人の散策ブック～ 〈源流を行く編〉

桂川・由良川源流 (Katsuragawa・Yuragawa)

〔発行〕平成26年3月

〔発行者〕公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構  
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-2-15 (大手前センタービル4F)  
TEL. 06(6920)3035 FAX. 06(6920)3036  
<ホームページ> <http://www.byq.or.jp/>

\* 散策ブックはホームページ上で閲覧することができます \*

©BYQ, 2014 Printed in Japan

「 飲める水 遊べる水辺 次世代に 」

琵琶湖・淀川 里の川をめぐる  
～ちょっと大人の散策ブック～

源流を行く 編

桂川・由良川源流

(Katsuragawa・Yuragawa)

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構  
(公社)日本水環境学会関西支部川部会  
(一社)近畿建設協会



## 「琵琶湖・淀川流域散策ブック」のねらい

(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構と(公社)日本水環境学会関西支部川部会、(一社)近畿建設協会は、大都市圏の川を水質という側面だけではなく総合的に把握し、その機能を再評価するために川部会が2001年より行ってきた活動の成果を基礎に、「琵琶湖・淀川流域散策ブック」をまとめることになった。

この散策ブックは、琵琶湖・淀川流域の河川を散策する時に気軽に携帯できるガイドブックを意図して作られており、対象河川の概要はもとより、流域の見どころ、名水や滝、水質や生物、その川にまつわる興味深い話などが、豊富な写真や地図を用いて解説されている。

散策ブック全体は、「源流に行く」、「おうみの川」、「みやびな川」、「歴史とロマンの川」、「なにわの川・庶民の川」の5編で構成され、それぞれ5、6リーフレットからなる。本リーフレットでは、源流に行く編として、淀川の支川の桂川と日本海に注ぐ由良川の源流・上流を取り上げた。

本ブックシリーズが、琵琶湖・淀川流域の河川に親しみを感じ、流域を散策するための一助になることを願っている。

### 目次

ねらい・目次	
桂川・由良川の源流域の概要	02
紅葉の高雄から北山杉の周山へ	03
コラム1 沢の池と酸性雨の影響	04
世木・日吉ダム	06
コラム2 日吉ダムと保津川下り	07
周山から桂川源流の広河原へ	08
コラム3 常照皇寺と山国隊	10
芦生原生林とダム計画	11
茅葺きの里から大野ダムへ	13
コラム4 由良川洪水とバス立ち往生事件	14

### CONTENTS

## 1 桂川・由良川の源流域の概要

京都府内で三番目に高い三国岳(959m)は福井県に近く、滋賀県と京都府の境にあり、その西斜面の芦生が由良川(流域面積1,880km<sup>2</sup>)源流域である。さらに西南へ約4kmの広河原が淀川支川桂川(同1,100km<sup>2</sup>)源流域である。両河川上流域は丹波高地東端に位置し、日本海と瀬戸内海の分水嶺が両流域を分ける。両河川東側は、比良山系の朽木谷を北流して琵琶湖へ注ぐ安曇川流域となる。

両河川の上・中流域は古くは丹波の国で、由良川は南丹市美山から船井郡京丹波町、綾部市、福知山市を経て、下流域は丹後の国で宮津市由良と舞鶴市神崎の間で若狭湾に注ぐ。由良川は、流域面積が京都府の37%を占める北部最大

の河川であり、流域の89%が山地で福知山盆地に平地が集中する。

桂川は京北から南丹市の日吉ダムを経て亀岡市から保津峡を下り、山城の国の京都市嵐山に出る。さらに京都市街地西郊を流下し、大山崎町で宇治川と木津川とともに淀川となる。京北(旧、北桑田郡京北町)は2005(平成17)年に右京区に、源流の広河原は1957(昭和32)年に左京区と、区を異にして京都市に編入された。

山紫水明な両上流域では鮎釣りが、源流域ではアマゴ釣りが盛んである。桂川上流域は北山杉をはじめ杉・檜・松等木材の京への供給地であり、丹波松茸の産地である。国道によるトラック輸送の始まりや世木ダムの建設までは、筏に組まれ



た木材が桂川の増水期に嵐山の渡月橋まで運ばれた。嵯峨嵐山周辺には材木屋が多く、さらに京都市中心部への輸送のため、人工河川の西高瀬川が掘削されたほどである。



桂川・由良川流域図

(表紙写真/栗尾峠からの大堰川(桂川)の展望)



## 2 紅葉の高雄から北山杉の周山へ

京都市街地のJR嵯峨野線二条駅からの由良川・桂川源流域へのアクセスは、国道162号線を北上し、**清滝川**(保津峡下流部で桂川に合流する)上流域の**高雄**(高雄・楨尾・梶尾の三尾:**神護寺**・**西明寺**・**高山寺**がある)の**“もみじ街道”**や中川・小野郷地区の**“北山杉街道”**の**周山街道**を経て周山に達するのが近道である。なぜ近道かは、最近数十年間の笠隧道、中川隧道、京北隧道のトンネル開通による時間短縮が理由である。現在は、西日本JRバスが京都駅と周山間を運行している。

鳥獣戯画で有名な高山寺下の梶尾駐車場北の清滝川傍には上流の中川地区で分流を受けた発電用水による水路式の**梶尾発電所**も見られる。この清滝川沿道の両山側が北山杉の見どころである。梶尾から北の杉坂口で、**杉坂川**が左岸から清滝川に合流する。国道162号線を右折して中山橋



御経坂(162号線)の紅葉



高山寺表参道



高山寺(石水院)



梶尾発電所



北山杉と磨丸太



菩提の滝



沢の池

から杉坂川沿いの府道31号を上ると**道風神社**がある。この湧水で墨を摺って書に勤しんだ小野道風ゆかりの地である。ここからさらに細い山道を行けば、氷室の里である。平安時代の朝廷に氷を夏に献上した**氷室跡**や**氷室神社**がある。

清滝川沿いの中川地区を、中川隧道に入らずに旧道を行くと、床柱になる磨き丸太の展示とレストランの**北山杉資料館**がある。清滝川沿いの中川地区入口の菩提道を右折して山側の道を道なりに上って行くと、**菩提の滝**の上に出る。落差十数mほどであるが北山杉の中の清々しい滝である。さらに京都市街地方向に**菩提川**沿いを登って、分かれ道を右折すると**沢の池**に至る。湛水面積0.041km<sup>2</sup>、最大水深約4.5mの池で、かつては水田に灌漑用水を供給する農業用ため池であった。綺麗な水質を保っているので現在は池周囲が

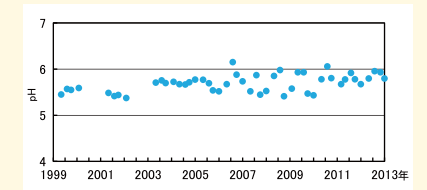
### コラム① 沢の池と酸性雨の影響

標高371m、集水域面積0.31km<sup>2</sup>の沢の池は、1993(平成5)年から環境省の酸性雨陸水影響モニタリング調査の対象で、pHやアルカリ度の低い湖沼として、京都市衛生公害研究所が調査を継続してきた。環境省の定期調査は毎季の4回であるため、著者もかつて毎月調査を行った湖沼である。

集水域は京都市街地の北北西で松林や雑木林の山中にあり、最高標高は540mとさほど高くなく、ハイキング、ブルーギル釣り、時代劇撮影で人が入るが、人為汚染は少なく、藻類現存量も大きくない。流入河川はなく、昔の灌漑用水池の役割が終わって、水位は制御されないため増減は少なく、池水は北部や東南部の池底近くから少しずつ流出する。

吉川によれば、沢の池は1960年頃～1980年代まではpHが低下傾向、1990年代

はpH5.5前後のレベルを保っていたが、2003(平成15)年以降は下図のように若干上昇傾向も見られる。京都市内の大気汚染観測調査結果を考慮すると、アジア大陸方面からの偏西風による大気汚染物長距離輸送の影響が大きいと考えられる。高山での岩質の窪地への降水のたまり水とは違って集水域は山林であり、2000(平成12)年の三宅島噴火の影響かと思われるpH低下も観測されるほど、酸性影響に敏感な湖沼である。



【沢の池のpH経年変化】



時代劇の撮影場に利用され、すぐそばの急な地肌の山道はモーターバイクのトレイルコースとなっている。この沢の池には槇尾からハイキングでも行ける。

中川地区の清滝川右岸側には北山杉の磨き丸太造りの作業場が並ぶ。ここはノーベル賞作家川端康成の小説で二度(岩下志麻と山口百恵が二役で主演)も映画化された双子姉妹の物語「古都」の舞台でもある。さらに清滝川沿いの国道162号線を上った小野郷地区の**岩戸落葉神社**は源氏物語「落葉の君」ゆかりの神社で、樹齢約400年の大銀杏があり、11月中旬にはライトアップされる。

国道162号線の小野郷地区から京北の**細野**地区へ笠隧道で抜けると、**細野川**沿いの愛宕道を通る。火の神様を祭る**愛宕山**(924m)の**愛宕神社**へは、京都の古い集落自治会では伊勢神宮へお参りする伊勢講と同じように愛宕講を作って、講の中で順次当番制の代表がお参りしてお礼を貰って帰る慣習が残っている。その愛宕山への登山口は、京都市嵯峨の奥で清滝川の清滝口が有名であるが、この細野口と、南丹市神吉と亀岡市および京都市右京区の境の越畑口の3つである。この愛宕道の反対方向の東側を上ると3段で約20mの落差の**滝又の滝**がある。細野地区から**栗尾峠**を京北隧道で抜けると**大堰川**(**桂川**)の周山に入る。

周山の約1km手前の桂川の八千代橋を渡り、右岸側の少し細めの道を下ると、**魚ヶ淵の吊り橋**に行ける。ここは京都一周トレイル京北コースの一部で、桜の季節の見所でもある。この桂川沿いを下るか、周山で左折して国道477号線で**宇津峡**を経て、世木ダム・日吉ダムに行ける。宇津峡左岸下流部の**宇津峡公園**はキャンプや釣り客で賑わう場である。



中川の材木屋



岩戸落葉神社と大銀杏



小野郷(笠隧道前)



滝又の滝



魚ヶ淵の吊り橋



宇津峡公園



日吉ダム



日吉ダム 非常用洪水吐き



府民の森ひよし



天若湖



ビジターセンター

### 3 世木・日吉ダム

京都市から日吉ダムに行くには、周山を経て下るルートと、国道9号線で亀岡市を経て南丹市園部河原町を右折して府道19号線を北上するルートがある。また、JR山陰本線日吉駅からは徒歩30分の距離である。水資源機構が管理する**日吉ダム**は高さ67mの重力式コンクリートの多目的ダムである。堰堤下には温泉・プール・体育館・地元物産店を擁する**スプリングスひよし**があり、地元のまち興しに貢献している。ダムを堰堤下から見上げる景観がすばらしく、1999(平成11)年に日本建築学会賞を授与され、1996(平成8)年にはふるさと切手にもなった。1997(平成9)年竣工後の湛水初期には淡水赤潮の発生も見られたが、その後の発生はない。2004(平成16)年の台風23号による既往最大出水ではピーク流量カットで下流の被害軽減に貢献したが、濁水の長期滞留現象も生じた。2013(平成25)年9月の18号台風は、2004年の台風23号を上回る大出水となり、温度成層状態の日吉ダムに大量の濁水が侵入して、濁水の長期滞留現象が続いた。

ダム堰堤から**天若湖**の左岸側を少し遡れば**日吉ダム防災資料館**(ビジターセンター)があり、パネル展示や大型画面の映像も楽しめる。そのすぐ上流側の高台には、**日吉郷土資料館**や、宿泊施設・キャンプ場を備えた京都府の**府民の森ひよし**などが整備されている。天若湖の湖面に8月上旬の2晩だけ、水没した天若の5集落があたりとして浮かび上がる幻想的な催しの「天若湖アートプロジェクトーあかりがつなぐ記憶ー」が、各種団体の合同による実行委員会によって2005(平成17)年から続けられている。



日吉ダムの湛水域上流端には、関西電力の高さ35.5mの重力式コンクリートの**世木ダム**が1951(昭和26)年から存在し、現在も発電を続けている。日吉ダムの竣工によって、満水時にはダムの下部が水没する珍しいタイプのダムになり、洪水吐ゲートも取り外されて出水時には自然越流方式となった。この世木ダムは発電用のため、取水された用水はダムを経ないでダム下流に放流される。日吉ダムにとって一種のプレダムのような存在で、管理者が異なっているが、両者の連携協力で下流への水質影響を少なくできると思われる。

大堰川(桂川)は周山で**弓削川**を、**宇津**地区中地で**細野川**と**熊田川**を併せて関西電力の世木ダムを経て、その直下の日吉ダムへと続く。日吉ダムのすぐ下流の殿田で田原川と、南丹市のJR山陰本線吉富駅の東側で園部川と合流して亀岡盆地に入り、保津峠を経て嵐山の渡月橋に至る。



日吉郷土資料館



世木ダム



弓削川合流点

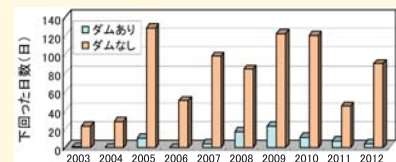
## コラム② 日吉ダムと保津川下り

日吉ダムは、下流の亀岡市や南丹市を保津峡狭窄部による浸水常襲地域からの解放対策と、京都府・大阪府・兵庫県等上水道の原水量の安定供給を目的として1997(平成9)年に竣工した。出水の洪水制御と渇水時の水量補給という矛盾した目的に対応する難しい流量制御が必要とされる。

竣工以来200mmを越える多くの豪雨に対して治水面で活躍してきた。その中では、大野ダムと同様に、2004(平成16)年10月の台風23号による京北で234mm、花脊峠で262mmの出水で、最大流入量856m<sup>3</sup>/sに達し、その時点で148m<sup>3</sup>/sを放流して全体で2,090万m<sup>3</sup>を貯留した。その結果、亀岡市保津で洪水警戒水位を超えて最高水位は6.3mとなり、浸水被害の軽減に役だった。これが2013(平成25)年9月の18号台風まで

の既往最大流入量記録となっている。

また、渇水期の流水量の補給の働きは目立たないが、農業用水や水道原水の安定供給に貢献している。亀岡から嵐山までの保津峡川下りの船は、ダム竣工まで、渇水年の1994(平成6)年は渇水による運行休止が35日もあった。これまでの2000(平成12)年の夏期、2008(平成20)年夏期、2009(平成21)年夏期などの渇水期の流量補給に貢献して、保津川下りの営業日数の増加への寄与は大きい。



〔新町下地点において確保流量を下回った日数〕



ウディー京北



京都府ゼミナールハウス



山国護国神社



山国神社



常照寺九重桜



常照寺山門

## 4 周山から桂川源流の広河原へ

**周山**は大堰川(桂川)と弓削川の合流点であり、京北の中心地で、地元の物産や観光情報が得られる道の駅**ウディー京北**がある。両河川の合流はこれまで大洪水時に度々周山の街に浸水をもたらしてきた。弓削川に沿って西の鯖街道の国道162号を約5km上ると、下中地区に森に囲まれた**京都府ゼミナールハウス**があり、宿泊合宿に利用されている。

周山はその字のごとく四周が山で、三日天下の明智光秀が山城を造ろうとした**周山城址**がある。この周山から、国道162号線を右折して477号線に入り、山国・黒田を経由して大布施<sup>おおふせ</sup>を経て広河原に行ける。周山から上黒田までは京北ふるさとバスに乗り換えが必要である。

国道477号線沿いの**鳥居**には維新戦争で活躍し、京都時代祭の先頭をきる**山国隊**(農民兵の維新勤王隊)を祭る**山国護国神社**がある。国道477号を挟んで斜め向い側には延喜式内社の**山国神社**も存在し、10月の第2日曜日には“山国さきがけフェスタ”として山国隊軍楽保存会による鼓笛を演奏しての行進が見られる。

さらにその先の**大野**には、室町時代の北朝方の二つの天皇陵と一つの天皇分骨所のある**常照寺**がある。この地域では常照寺と略称されるが、勅使も迎える格式の高い禅宗寺院で、天然記念物の枝垂れ桜・九重桜やもみじが有名である。国道477号線の常照寺の直前の**山陵橋**(大堰川(桂川))の下流は夏休み中の子供の水浴場・水遊び場となっている。このふるさとバスの停留所名「山国御陵前」から1kmあまり東の支川小塩川沿いを北に上がると、京北山国の家がある。

黒田地区入口の大堰川(桂川)左岸には、関西電力の古風な水路式**黒田水力発電所**がある。**大布施**で左折して府道38号線に入り、北上して広河原に至る。**花脊八柵**地区の大堰川(桂川)左岸側の八柵川沿いには、(公財)京都市森林文化協会が管理する**山村都市交流の森**があり、宿泊施設の翠峰荘も付設されている。この山村交流の森を経由して、**峰床山**(970m)や八丁平湿原にも行ける。山村都市交流の森は桂川源流域に広がる1,000haの森林公園で、ハイキング、森林散策、自然観察、昆虫採集、バードウォッチング、川遊び・雪遊びの場でもある。

府道38号線を途中の原地で右折すれば北大峯とも称される**大悲山峰定寺**に行ける。峰定寺は修験道系の山岳寺院で、創建は1154(久寿元)年で、本堂、仁王門、千手観世音座像など重要文化財がある。

京北地区でも大堰川とも称されるように、桂川源流の**広河原**は**堰原**地区と呼ばれ、河川沿いの低地に水田がある。木材や、近くの雑木から炭を焼き木炭を出荷する林業の里であった。山深い積雪の多い地域で茅葺きの民家が残り、炭焼き窯址などが見られるが、現在も過疎化が進んでいる。この集落のすぐ上流側の水田脇の桂川左岸に、**桂川管理起点標の杭**が存在する。広河原には京都市内唯一の小さな京都広河原スキー場があり、天然雪で営業するため営業日が限定される。

もう1つの源流域へのアクセスとしては、京都市街地から東北部の府道38号線の**鞍馬街道**を経由して、国道477号線の七曲がりの**花脊峠**を経て花脊別所から広河原に至るルートが存在する。京都バスが出町柳から鞍馬・広河原を結んでいる。

広河原から芦生に抜ける**佐々里峠**は、日本海と



山陵橋下流の水遊場



黒田発電所と水路



山村都市交流の森



翠峰荘



峰定寺入口



峰定寺山門



桂川管理起点標の杭



京都広河原スキー場

瀬戸内海とを分かち分水嶺である。つづら折りの坂道は通過車両が稀で、自転車競技者の訓練フィールドとなっており、土休日は汗を浮かべ苦しい顔でこぎ上がって来る若者たちとの出会いが多い。佐々里峠の山坂道を下ると佐々里に至る。**佐々里**には一時、スキー場が存在した時期があった。佐々里スキー場跡地入り口にはササリナチュラルランドの看板が上がり、現在はキャンプ場となっている。



北山杉

### コラム③ 常照皇寺と山国隊

京の都に近く、天皇陵のある常照皇寺は皇室との縁が深い。北朝の初代天皇であった光厳上皇が1362(貞治元)年に同地にあった無住の成就寺を改めて開創したのが常照皇寺である。光厳天皇の山国陵、後花園天皇の後山国陵、後土御門天皇の分骨所が存在する。戦国時代には衰退したが、江戸時代には寺領50石、末寺7か寺を擁するほどであった。

このような縁もあって山国地区は太閤検地までは皇室直轄の荘園であった。幕末の鳥羽・伏見の戦いの後、王政復古の募兵に呼応して、自弁による農兵隊を結成して出陣した。第1陣は鳥取藩に付属して、中山道の甲州勝沼の戦、東山道の野州安塚の戦、上野の彰義隊との戦を経て、仙台城まで行き、江戸を経て帰郷した。第2陣は御所警護にあたる御親兵となったが、大きな活躍の場はな

かった。

これら山国隊士の死者を祀る招魂場が山国護国神社である。

今でも10月中旬の祭礼には、当時の農民兵のスタイルでの鼓笛隊が練り歩き、お御輿の巡行がある。京都の時代祭の行列の先頭には別の協力団体が維新勤皇隊として錦の御旗を掲げて山国の住民に代わって行進している。



〔時代祭 維新勤皇隊列〕



## 5 芦生原生林とダム計画

由良川支川**佐々里川**沿いから本川に出て右岸側を遡れば、南丹市美山の**芦生の里**であり、旧北桑田郡美山町芦生である。芦生集落も過疎が続いていたが、芦生なめこ生産組合(現、有限会社芦生の里)が山菜加工と木材加工(芦生木工組合)でまち興しをして、廃村の危機から脱した経緯がある。今や、山菜の露やなめこの佃煮は京都市内のスーパーにも並んでいる。

1965(昭和40)年には、福井県内の原子力発電所の夜間余剰電力で芦生演習林(現、芦生研究林)内の上部ダムに揚水して、昼間は福井県側の下部ダムに水を落として発電する揚水発電計画が持ち上がった。建設反対運動があつてダム計画は止まって、芦生の灰野以奥の共有林を借り上げていた京都大学が管理し、貴重な学術研究の場として維持されている。

芦生の奥の京都大学が管理する研究林(4,200ha)の約半分は、人手の加わらない天然林であり、関西では奈良県の大台ヶ原と並ぶ原生林で、京都の秘境と称される。研究林入口近くに山小屋風の三角屋根の研究林事務所(現、京都大学農学部附属フィールド科学教育研究センター



芦生研究林入口



芦生研究林事務所



由良川橋(トロッコ道)



廃村跡



由良川管理起点



トロッコ道



芦生山の家

森林ステーション**芦生研究林事務所**があり、反対側には研究林の紹介や学術展示の館もある。

トロッコも通る由良川橋を渡って由良川左岸側の七瀬自然観察道に行くには、ここに前もって入山願いを提出して許可を受け、後日に使用報告を出すのが正式の利用法である。この事務所付近の標高は356mとあまり高くはないが、年間降水量は2,375mmで、最大積雪深の平均が約1mと雪深い里である。

この七瀬観察道の灰野集落跡の冷涼な清流脇の左岸側川岸に、**由良川管理起点標の杭**があり、桂川管理起点標とは直線距離にしてわずか4kmの近さである。この事務所の手前には、バーベキューハウスも備えた「**芦生山の家**」の宿泊施設がある。ここの経営は下流側の(一財)美山町自然文化村と同じで、(日本の秘境)芦生の森・ネイチャーガイドトレッキングの催しを行っており、ガイドの案内付きで研究林内を歩くことができる。



美山かやぶきの里



## 6 茅葺きの里から大野ダムへ

芦生から由良川右岸沿いに**田歌**を經由して府道38号線を下ると、**知井**地区・中には由良川左岸側に**美山町自然文化村**が、右岸側には**美山かやぶきの里**がある。美山町自然文化村は由良川沿いにあり、ログハウス調の宿泊施設の河鹿荘もある。ここから**潜没橋(沈下橋)**の由良川を渡れば対岸は美山かやぶきの里である。この北集落の50戸のうちの38棟が茅葺き屋根で、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている。2013年の正月前後には、日本郵政のテレビコマーシャルとして、郵便配達風景が流され、日本の原風景に出会える人気観光スポットとなった。

この絵になる風景の美山かやぶきの里辺りの由良川は、鮎釣りやアマゴ釣りで賑わうスポットでもある。府道38号線と国道162号線に入って、由良川と**深見川**の合流する**安掛**には赤いアーチ橋(通称、赤橋)の**平屋大橋**や道の駅**美山ふれあい広場**がある。

国道162号線をさらに小浜市に向かい、福井県境の鶴ヶ岡から流下する支川の**棚野川**を横切って静原で左折し、府道12号線を大野に向かえば、棚野川を合流した由良川が車窓の左側に再び現れる。棚野川の上流にある**成願寺**は中風除け祈願の寺として遠方からの参拝者が多い。

さらに由良川を下ればほどなく、大野ダムの湛水域「**虹の湖**」となる。この地に京焼の祖と言われる茅葺きの**野々村仁清**生家も存在する。また、少し下流側の**石田家住宅**は、1650(慶安3)年創建の記録が残る日本で最古の農家として、国の重要文化財に指定され、解体修理後に復元されている。



美山かやぶきの里



沈下橋と由良川



由良川の魚道



道の駅美山ふれあい広場と平屋大橋



野々村仁清生家



大野ダム



大野ダム



大野ダム

**大野ダム**は、第2次世界大戦中の1943(昭和18)年に着工されたが中断され、戦後の台風被害や建設反対運動等を経て1961(昭和36)年に竣工した。高さ61mの重力式コンクリートダムで、治水と発電の多目的ダムである。京都府が管理する大野ダム堰堤入口には、パネル展示やディスプレイ映像などが見られるビジターセンターがあり、周縁部には桜の公園やバタールゴルフ場がある。

さらに下れば、京丹波町和知の国道27号線に至る。その下流側には和知ダムと由良川ダムがある。

大野ダムからは上流側に府道12号線に戻って和泉から府道368号線で宮脇を経て、府道19号線で佐々江から田原川沿いを下り、南丹市日吉町殿田の東側の木住隧道から日吉ダムに行ける。

### コラム 4 由良川洪水とバス立ち往生事件

2004(平成16)年10月の台風23号は、南丹市美山の1978(昭和53)年観測開始以降、史上1位で196mmの日降水量をもたらした。前後の3日間美山で260mm、大野ダム流域平均では292.6mmの降水量は、由良川本川や支川の大増水を引き起こし、舞鶴市で堤防決壊等大きな被害をもたらした。

20日の夜に由良川下流部沿いの国道175号線を走行中の貸し切りバスが由良川の増水で立ち往生し、乗客37人がバスの屋根に避難する事態が生じた。このありさまはテレビや新聞のニュース報道で全国に広く知られた事件である。

大野ダムでは流入量が1186m<sup>3</sup>/sに達し、723m<sup>3</sup>/sを放流して463m<sup>3</sup>/sの洪水量を調節した。2つの山の流入量ピークとなった出水で、一時的に貯留できる最高水位のサー

チャージ水位まで2mに迫った段階で、バス立ち往生の情報があり、放流量を抑制してさらに貯留を続けたこともあって、翌21日に乗客37名は無事救助された。

ダムの洪水調節には「ただし書き操作」があり、サーチャージ水位を越える場合、放流量を流入量と同じになるまで増やしていく流量操作が認められている。



【展示された新聞報道】